

[研究ノート]

KANDA×TUFS 英語モジュール「アジア英語版」にみる社会的・文化的特質：
インド、フィリピン、マレーシア版を中心に

**Social and Cultural Features of Asian Englishes as seen in the KANDA×TUFS English Modules:
Emphasis on the Indian, Philippine and Malaysian Versions**

矢頭 典枝
Norie Yazu

神田外語大学
Kanda University of International Studies (1-4-1, Wakaba, Mihama-ku, Chiba, 261-0014, Japan)

要旨：本稿では、KANDA×TUFS 英語モジュールの最新の三つの「アジア英語版」が、雛形とされたアメリカ英語版や他の欧米版に比べ、いかに異なるモジュールに仕上がったのかという点について解説する。アジア版の第一弾となったシンガポール版に続いて開発されたインド、フィリピン、マレーシア版では、日本人にはなじみのないアジアの食文化、衣装、慣習、社会事情、宗教などが登場し、さらにアジア英語には他の言語からの語彙的・音韻的・語法的要素が転移しているため、学習者が理解できるように、これらを説明する記述が欧米版に比べて圧倒的に多くなった。CEFR のアジア諸語への適用を進めるにあたって、英語モジュールのアジア版の開発研究と同様に、アジア諸国の多様な社会的・文化的特質に合わせた柔軟性をもつことが重要だと論じる。

Abstract: This article attempts to describe how the three newly created Asian versions of the “KANDA×TUFS English Modules” turned out to be different from the original template which was based on the American version. Following the Singapore English version, the Indian, Philippine and Malaysian English versions were created and compared with the English versions of the “Inner Circle.” The author argues that detailed description of the social and cultural features of these Asian countries was crucial in creating the Asian versions, which may be of use as a reference to the application of the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) to Asian languages.

キーワード：英語モジュール、アジア英語、インド英語、フィリピン英語、マレーシア英語

Keywords: English Modules, Asian English, Indian English, Philippine English, Malaysian English

1. はじめに

本科研では、「EU という比較的均質な言語・文化・社会的土壌で構想が生まれ育まれた CEFR が、果たしてアジア諸地域の言語教育にそのまま適用しうるかどうか、といった研究課題を設定」(富盛、2019)し、アジア諸語にその多様な言語および社会・文化的特質を考慮に入れた新たな能力評価記述法を開発している。

筆者は、前・富盛科研¹の最終報告書のなかで、KANDA×TUFS 英語モジュール (以下、「英語モジュール」) のシンガポール英語版²を取り上げ、その開発過程と CEFR がアジア諸語に適応される状況に共通点を見出すことを試みた。EU 域内の諸言語に有効な通言語的な枠組みとして開発された CEFR が

¹ 科学研究費助成事業基盤研究(B)「アジア諸語の社会・文化的多様性を考慮した通言語的言語能力達成度評価法の総合的研究」(2015年度-2017年度、研究代表者：富盛伸夫、研究課題：15H03224)。

² 科学研究費助成事業基盤研究(B)「社会言語学的変異研究に基づいた英語会話モジュール開発」(2012年度-2015年度、研究代表者：関屋康、研究課題：24320106)を受領し、2015年に公開された。

アジア諸語に適用された場合、一筋縄では行かないことが示唆されているが、同様に、英語を母語あるいは第1言語とする英語圏の国々の英語を想定して開発した英語モジュールの雛形がアジア英語として初めて開発されたシンガポール英語版にそのまま適用できないことが分かった。シンガポール英語モジュールの開発にあたっては、特にシンガポールの社会的・文化的特質にかかわる点において変更を余儀なくされ、結果的にアメリカ英語版をはじめとする欧米の英語変種版に比べ、かなり異なるモジュールに仕上がったことについて論じた(矢頭、2018)。本稿では、その後開発された3つのアジア英語のモジュール—インド版、フィリピン版、マレーシア版—にみられる各国の社会的・文化的特質を抽出することによって、これらがどのような点において欧米の英語変種版と異なったモジュールに仕上がったのか、という点を解明する。

2. 「KANDA×TUFUS 英語モジュール」アジア英語版(インド・フィリピン・マレーシア版)の開発

「KANDA×TUFUS 英語モジュール」、あるいは「TUFUS 言語モジュール英語」と呼ばれる本ウェブ教材³(以下、「英語モジュール」とする)は、日本人が学校教育だけでなく、ビジネスの世界でも世界各国の多様な英語に接する環境に置かれていることを踏まえ、発音、語彙、文法、つづり字などが異なる多様な英語変種の特徴についての学習を可能にする教材として開発されている(その詳細な背景、特徴、使い方については関屋、矢頭、マーフィー(2015)、矢頭(2018a)、矢頭(2018b)などを参照)。

各「英語モジュール」には40の言語機能を表す会話を動画にしているが、そのうちの前半の20会話(動画#1-20)は各英語変種で異なる各国独自のスクリプトであり、後半の20会話(動画#21-40)は全英語変種で共通のスクリプトとなっている。後者を活用することによって異なる英語変種を同列に置いて、それぞれの発音、語彙、表現の特徴を容易に比較できることがこの英語モジュールの最大の特色である⁴。

開発にあたっては、World Englishesの研究分野でKachruが提唱した「三つの円」の概念(Kachru, 1985)を念頭においてモジュール開発する英語変種を選定した。この概念では、英語を国民の大半が母語あるいは第1言語として使う国々を「内部圏(Inner Circle)」、公用語としてあるいは第2言語として使う国々や地域を「外部圏(Outer Circle)」、外国語として学校教育のなかで教えている国々や地域を「拡張圏(Expanding Circle)」と称している。これまで、内部圏からアメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、アイルランドの英語、外部圏からシンガポール、インド、フィリピン、マレーシアの英語を取り上げ、2021年現在、これらの10モジュールを公開している。

本稿では、インド、フィリピン、マレーシアの三つのアジア英語モジュール⁵に焦点を当てる。各英語モジュールの40会話のスクリプトの作成は当該国の研究協力者が担当した。インド英語モジュールはデリー大学、フィリピン英語モジュールはデラサル大学、マレーシア英語はマラヤ大学の教員と大学院生がスクリプトを作成した。アジア版初となったシンガポール英語モジュールの開発と同様に、これらの三つのアジア英語版のモジュールも、最初に開発したアメリカ英語版のスクリプトが雛形となった。スクリプトの作成にあたり、スクリプト発注者である筆者は、前半の20会話の各英語変種で異なるオリ

³ 本ウェブ教材のなかの動画付きの「会話モジュール」は科研費(基盤研究(B)平成24-27年度、課題名:「社会言語学的変異研究に基づいた英語会話モジュール開発」、課題番号24320106、研究代表者:関屋康)を受けて開発され、「語彙モジュール」と「発音モジュール」は神田外語大学研究助成金および同大学のグローバル・コミュニケーション研究所研究プロジェクト助成金を受けて開発された。

⁴ 英語モジュールで扱う言語機能とスクリプトの番号については矢頭(2018a) http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/site/0008/_src/7176/6_yazu.pdfを参照。

⁵ インド、フィリピン、マレーシア英語モジュールの開発にあたっては科学研究費助成事業基盤研究(B)「多様な英語への対応力を育成するウェブ教材を活用した教育手法の研究」(2018年度-2021年度、研究代表者:矢頭典枝、研究課題:18H00695)を受領した。

KANDA×TUFUS 英語モジュール「アジア英語版」にみる社会的・文化的特質：
インド、フィリピン、マレーシア版を中心に（矢頭典枝）

Social and Cultural Features of Asian Englishes as seen in the KANDA×TUFUS English Modules:
Emphasis on the Indian, Philippine and Malaysian Versions (Norie Yazu)

ジナルのascriptには「自分の国の社会的・文化的特質」を盛り込むように注文した。

「外部圏」に属するシンガポール英語版では、「内部圏」に属する英語のモジュールとは同じように開発が進められず、結果として「内部圏」の英語変種版とはかなり異なる英語モジュールが誕生したことはすでに論じた。主な相違点は次の2点であった。1)「内部圏」の英語変種版では、アメリカ英語版に特有な語や表現を各英語変種版に特有な英語の語や表現に変えたのに対し、シンガポール英語版では中国語諸語やマレー語の語や表現、あるいは独特な語法の英語に変える箇所が相当数あった。2)「内部圏」で起こりうる場面設定がシンガポールでは起こりえず、後半20会話（動画#21-40）の「共通ascript」のいくつかは場面設定自体を変える必要があった（矢頭、2018a）。

では、インド、フィリピン、マレーシアの三つのアジア英語版の開発にあたって英語モジュールの雛形をなぜ、どのように変える必要があったのか。そして、どれくらい「内部圏」の英語モジュールと異なるものに仕上がったのか。これらの点についてこの三つのアジア英語版から各国の社会的・文化的特質および主な言語的特質を抽出して整理したうえで考察したい。

3. 「独自ascript」にみるインド、フィリピン、マレーシア英語モジュールに反映された社会的・文化的特質

英語モジュールの開発に当たっては、学習者たちが、各国の社会の事情や文化的慣習などについて理解し、興味を持ってくれるように、様々な工夫を凝らしている。各英語モジュールの40個の動画の背景の多くには当該国で撮影した写真を使用し、当該国の雰囲気を醸し出している。インド英語版ではニューデリーのコンノート・プレイスやヒンズー教の寺院、フィリピン英語版ではマニラのビジネス街やイントラムロス歴史地区、マレーシア英語版ではクアラルンプールの商業施設やセントラルマーケットなどである。また、各モジュールの40の会話には、当該国の地名、食べ物、交通機関、慣習、商業施設、余暇の過ごし方などが登場し、「語彙説明」のなかで解説されている。特に前半の20個の「独自ascript」は、なるべく「自分の国の社会的・文化的特質」を盛り込み、当該国でよく展開されるオリジナルのストーリーラインにするよう筆者がascript作成者たちに注文を付けた会話である。本節ではこれらの前半の各国「独自ascript」（動画#1-20）に焦点を当てる。

3.1. インド英語モジュール

表1は、インド英語モジュールの前半の「独自ascript」にみられるインドの社会と文化が表れている語の一部を示す。

表1 インド英語モジュールにみられる社会と文化を表す語と表現の説明例

動画	使われている語・表現	説明
#2	sari	"sari"はインドで女性が身につける、体を包み込むような形状をした綿あるいは絹製の伝統衣装のこと。縦は5~9ヤード、幅は2~4ヤード。
	Kancivaram	"Kancivaram"はインドのタミール・ナドゥ州にあるカーンチープラム県の織工職人が作る伝統的な絹のサリーのこと。
#3	roti	"roti"は丸い形状をした平たいパンの一種で、チャパティとも呼ばれている。主要な料理の一つで、たいてい豆類や野菜と一緒に食べられる。
#5	pulao	"Pulao"は米と野菜を炒めて作る料理で、ピラフのようなもの。「ブラオ」
#6	Radha	"Radha"はヒンドゥー教ヴィシュヌ派の神話に出てくる牧女で、クリシュナの恋人。「ラーダ」
#10	Dilli Haat	"Dilli Haat"はデリーで政府観光局が運営している、常設の屋外クラフトマーケットのこと。「ディリ・ハート」

#12	Have some water.	インドでは、家に客が来た時、まず水を出すのが礼儀とされる。
#13	Bahubali	"Bahubali"は『バーフバリ』2部作のことで、古代インドの架空の国“マヒシュマティ王国”を舞台に、王位をめぐる壮大な争いを描いたアクション映画。一作目の『バーフバリ 伝説誕生』は2015年に、後編の『バーフバリ 王の凱旋』は2017年に公開され、インド映画史上、最も高い興行収入を記録し、インド内外で商業的な成功を収めている。
	PVR	"PVR"はインド国内でチェーン展開をしている複合型映画館のこと。 "PVR"は"Priya Village Roadshow"のことで、インドの映画会社のこと。
	Sarvana Bhavan	"Sarvana Bhavan"は南インド料理のレストランチェーンのこと。「サラヴァナ・バヴァン」
#15	Taj Hotel	ニューデリー市内にある高級ホテル。ムンバイを拠点とするインドの高級ホテルチェーン Taj Hotels Resorts and Palaces の一つ。
#16	leather goods and mobile phones are not allowed inside the temple	ヒンドゥー教の寺院では、牛を神聖なものとみなし、死んだ動物の皮を宗教的に汚れたものとして扱うため、革製品の持ち込みを禁止することが多い。
#19	farmhouse	インドでは、近年、結婚式と披露宴を風光明媚でのどかな農村地帯にある農家"farmhouse"の敷地内で行うことが流行している。

表 1 が示すように、食べ物、衣服、商業施設、流行りの映画などが盛り込まれている。動画#2 では、インドの女性の伝統衣装である「サリー」が紹介され、デリーにある実際のサリー専門店の内部を背景写真に使っている (図 1)。

The screenshot displays a learning interface for an Indian English module. At the top, there are navigation elements including '神田外語大学 × 東京外国語大学 英語モジュール' and 'インド英語'. A language selector shows 'JP' and 'EN', and a video title '02 注意をひく' is visible. Below the navigation, there are controls for '注意をひく', '状況表示', 'テキスト表示 ON', 'ムービー表示 ON', and a '表示/非表示切替' menu with '英語' and '日本語' options. The main content area is split into two panels: 'TEXT' on the left and 'MOVIE' on the right. The 'TEXT' panel contains a dialogue between a man and two women about saris, with options A and C. The 'MOVIE' panel shows a video player with a scene from a saris store.

図 1 インド英語モジュール「#02 注意をひく」の動画
(http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_in.html#/jp-02)

また、筆者が特筆したいのは動画#12 で取り上げられている“Have some water.”である。友人が家に来たときになぜ「水をどうぞ」と言うのか、学習者にはわからないと思うが、語・表現の説明を見れば「イ

KANDA×TUFS 英語モジュール「アジア英語版」にみる社会的・文化的特質：
インド、フィリピン、マレーシア版を中心に（矢頭典枝）

Social and Cultural Features of Asian Englishes as seen in the KANDA×TUFS English Modules:
Emphasis on the Indian, Philippine and Malaysian Versions (Norie Yazu)

インドでは、家に客が来た時、まず水を出すのが礼儀とされる。」と記述しているため、これがインドの習慣であることが理解できる。

動画#5 と#16 でインドの宗教にかかわる語と文が盛り込まれている。#16 では、ヒンドゥー教の寺院に入ろうとする女性に対し、寺院の職員が「革製品と携帯電話は寺院内への持ち込みが禁止されています。」と言って注意している（図 2）。語・表現の説明では「ヒンドゥー教の寺院では、牛を神聖なものとし、死んだ動物の皮を宗教的に汚れたものとして扱うため、革製品の持ち込みを禁止することが多い。」と記述しているため、学習者たちはインドの宗教的側面を垣間見ることができる。



図 2 インド英語モジュール「#16 禁止する」の動画
(http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_in.html#/jp-16)

3.2. フィリピン英語モジュール

表 2 は、フィリピン英語モジュールの前半の「独自スクリプト」の動画にみられるフィリピンの社会と文化が表れている語の一部を示す。

表 2 フィリピン英語モジュールにみられる社会と文化を表す語と表現の説明例

動画	使われている語・表現	説明
#1	pamanhikan	"pamanhikan"は、フィリピンで新郎側から新婦側への正式な結婚の申し込みのこと。新郎が両親とともに新婦の家を訪ねて正式に結婚を申し込む。日本の結納に近い。「パマニカン」
#2	kare-kare	"kare-kare"はフィリピン料理の一つで、ピーナッツバターがベースとなっている煮込み料理。牛肉、チンゲン菜、ナスが一般的な具材だが、鶏肉やシーフードを入れることもある。
	carinderia	"carinderia"はフィリピンの大衆食堂のこと。ご飯とおかずを選び、食事をすることができる。「カリンデリア」

#3	jeepney	"jeepney"とはフィリピンの乗り合いバスのこと。「ジプニー」
	piaya	"piaya"はフィリピンのお菓子で、小麦粉でできた薄皮でマスコバト糖の餡を包んだもの。バコロドとその周辺地域で人気のお菓子。
#4	pancit	"pancit"「パンシット」はフィリピンでは一般的な麺料理の一つで、焼きそばのようなもの。中国からの移民が広めた。
#5	adobo	"adobo"はフィリピン料理の一つで、肉と野菜を醤油や酢で味付けして炒めたもの。
#8	dirty ice cream	"dirty ice cream"とはフィリピンの路上でソルベテロスというアイス売りが移動式の屋台で売っているアイスクリームのこと。スーパーで売っているブランドのアイスクリームと比べて工場で作られていないものなので「汚い」というイメージがついてしまい、このような名前がついた。昔懐かしの味ということでこちらを好むフィリピン人も多い。
#10	Boracay	"Boracay"はフィリピン中部に位置する島のこと。人気のある観光地・リゾート地の一つ。
	Underground River	"Underground River"はパラワン島のプエリト・プリンセサ地下河川国立公園にある全長 8.2km に及ぶ世界最大級の地底河川のこと。洞窟内をボートで移動して河川を見学するコースが人気。
#11	Baguio	"Baguio"はフィリピン北部ルソン島のコンディリエラ行政地域にある都市のこと。
	dirty kitchen	"dirty kitchen"は住み込みのメイドが使うキッチンのこと。フィリピンでメイドを雇う家庭の場合、家主のキッチンとメイドのキッチンを分けることがある。
#13	Paracetamol	"Paracetamol"はフィリピンで一般的に使用されている解熱鎮痛剤のこと。「パラセタモール」
#16	houseboy	"houseboy"は"house"と"boy"を組み合わせた語で、「(男性の)ハウスキーパー、お手伝いさん」の意味。
#18	ML	"ML"は"Mobile Legend"の略。若者に人気のあるスマートフォンゲームのこと。

フィリピン英語モジュールでは“kare-kare”や“pancit”などフィリピン固有の食べ物やフィリピン国内の観光地などの地名が盛り込まれている。フィリピン固有の乗り物として有名な「ジプニー」は動画#3の会話に出てくるだけでなく、動画#1の背景写真にも使われている（図 3）。

KANDA×TUFUS 英語モジュール「アジア英語版」にみる社会的・文化的特質：
 インド、フィリピン、マレーシア版を中心に（矢頭典枝）
 Social and Cultural Features of Asian Englishes as seen in the KANDA×TUFUS English Modules:
 Emphasis on the Indian, Philippine and Malaysian Versions (Norie Yazu)



図 3 フィリピン英語モジュール「#01 あいさつする」の動画
 (http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_ph.html#/jp-01)

フィリピンでは、高所得者に限らず一般家庭でも住み込みまたは通いのメイドを雇うことは珍しくなく、海外にも積極的にメイドを派遣していることが知られている。フィリピン英語モジュールの動画#11では、集合住宅に住む男性がメイドに掃除を依頼するという場面設定でフィリピンのメイド文化を紹介している（図 4）。また、動画#16 では“houseboy”と呼ばれる男性のお手伝いさんもいることにも言及している。



図 4 フィリピン英語モジュール「#11 依頼する」の動画
 (http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_ph.html#/jp-11)

3.3. マレーシア英語モジュール

表 3 は、マレーシア英語モジュールの前半の「独自スクリプト」にみられるマレーシアの社会と文化が表れている語の一部を示す。

表 3 マレーシア英語モジュールにみられる社会と文化を表す語と表現の説明例

動画	使われている語・表現	説明
#1	tuition	"tuition"は"tutoring school"の意味で、放課後に生徒が通う学習塾あるいは家庭教師のこと。試験科目の学習サポートが行われる。
#3	baju kurung	"baju kurung"はマレーシアの女性用の伝統衣装のこと。「バジュクロン」
#4	Kuantan	"Kuantan"はマレーシアのパハン州にある州都のこと。「クアantan」
#6	rendang	"rendang"は伝統的なマレー料理で、鶏肉あるいは牛肉をココナッツミルク、唐辛子、ハーブとスパイスで煮込んだもの。「ルンダン」
	Raya	"Raya"はインドネシア語で「偉大な」という意味の語で、この場合はイスラム教の断食月が明けたお祝いの期間のことを表す。「ラヤ」
#8	Pavillion	"Pavillion"はクアラルンプールの繁華街ブキッピンタンにあるショッピングモールのことで、高級ブランド店が多く入っている。
#9	Hartamas	"Hartamas"はクアラルンプールにある高級住宅街や富裕層向けの施設がある地域のこと。「ハルタマス」
	Government school	"government school"は"public school"の意味。「公立学校」
	Cannot afford international school.	"Cannot afford international school."は"I can't afford to pay tuition for an international school."の意味。「インターナショナルスクールの学費を払う余裕がない」
#10	Legoland	"Legoland"は"Legoland Malaysia Resort"の意味で、2012年にアジアで初めてオープンしたレゴランドのテーマパークのこと。「レゴランド」
	nasi kandar	"nasi kandar"はマレーシア北部の料理で、カレーとご飯に好みのおかずをのせたワンプレート料理のこと。「ナシカンダー」
	Georgetown	"Georgetown"はベナン島の中心街のこと。「ジョージタウン」
	Batu Feringgi	"Batu Feringgi"はジョージタウン郊外にあるビーチのこと。「バトゥ・フェリングギ」
#11	can send me to the LRT Station tomorrow at seven?	"can send me to the LRT Station tomorrow at seven?"は"can you send me to the LRT Station tomorrow at seven?"の意味。「明日の朝7時にLRTの駅に送ってくれないかな」 "LRT"は"Light Rail Transit"の略で、クアラルンプールの主要なスポットを結ぶ路線のこと。「軽量高架鉄道 (LRT)」
	Kelana Jaya station	"Kelana Jaya station"はLRTのケラナ・ジャヤ線の駅の一つ。「ケラナ・ジャヤ駅」
	Grab	"Grab"は東南アジアのUberともいえる配車サービスで、アプリのこと。ここでは「Grabで車を呼んで乗る」という動詞として使われている。
#14	JB	"JB"は"Johor Bahru"の略で、マレー半島南端にある都市。シンガポールの対岸にある。
	SmartTag	"SmartTag"はタッチアンドゴー・カードを挿入する装置のことで、日本で高速道路のETCレーンを利用する際に必要となるETCカードを入れる装置のようなもの。
	Touch'n Go card	"Touch'n Go card"はマレーシアで高速道路の料金所を通過する際に必要となるカードのこと。日本のETCカードのようなもの。
#16	Masjid Jamek	"Masjid Jamek"は1909年に建造されたクアラルンプールにある最古のモスクの一つである。「マスジッド・ジャメ」

	Sri Maha Mariamman Temple	"Sri Maha Mariamman Temple"は1873年に建造されたクアラルンプール最古のヒンドゥー教の寺院のこと。「スリ・マハ・マリアマン寺院」
	Central Market	"Central Market"はクアラルンプール中心部に位置する巨大なショッピングモールのこと。「セントラルマーケット」
#18	Durian kan heaty!	"Durian kan heaty!"は"Durians are so heaty!"の意味。「ドリアンで（体が）熱くなるよ！」 "kan"はマレー語で"so"の意味。「すごく」
	durian skin	ドリアンそのものも強烈な匂いがするが、食後も口や皮膚から独特の匂いがすることがある。そのため、食後の口臭を抑制するために、ドリアンの皮の内側の白く柔らかい部分に水を注いで飲む、あるいは匂いがいをすることがある。手の消臭のためによく手洗いをすることも併せて行うことが多い。
#20	Chindian	"Chindian"は中国系とインド系の両親を持つ人物のこと。「チンディアン」
	Mat Salleh	"Mat Salleh"は"Caucasian"の意味で、コーカソイド系の人々のこと。「マツサレー」

マレーシアは、三大民族のマレー系、中華系、インド系によって構成される。人口の約7割を占めるマレー系が多数派であるが、少数派の中華系が経済活動において優勢であり、そのため、マレー系を優遇する条項がマレーシアの憲法にある。マレーシア英語モジュールでは、こうした多文化社会マレーシアの社会事情、宗教、文化についての言及がみられる。まず動画#3でマレー系の伝統衣装「バジユクロン」について登場人物が話している。また、動画#6では伝統的なマレー料理の「ルンダン」とイスラム教の断食月が明けたお祝いの期間「ラヤ」について話している（エラー! 参照元が見つかりません。）。

図5 マレーシア英語モジュール「#06 能力についてたずねる」の動画
(http://labo.kuis.ac.jp/module/module/en_ms.html#/jp-06)

また、動画#16 では、クアラルンプールにある最古のモスクの一つ「マスジッド・ジャメ」が話題にのぼり、観光客はイスラム教徒の礼拝の時間にモスクに入ってはならないというルールについて言及している。また、同じ動画でヒンドゥー教の「スリ・マハ・マリアマン寺院」も話題にのぼり、寺院には土足で入ることが禁止され、入るときに靴を脱いで入り口のラックに靴を置くことになっていることも言及されている。

動画#18 では、マレーシアを代表する果物ドリアンが話題に上がり、ドリアンを食べすぎて具合が悪くなった男性に対して、女性がドリアンには体を温める効果があるに注意している。また、この女性のセリフでは、ドリアンの果実を外したあとの皮のくぼみに水を入れて飲めば体の火照りが抑えられること、さらに、その水で手を洗うとドリアンのおいが取れる、というマレーシアの民間伝承も紹介されている。

4. 「共通スクリプト」におけるアジア英語版の変更点

後半の「共通スクリプト」の20会話（動画#21-40）は基本的に同じスクリプトであるが、各英語変種間で異なる社会事情と文化が表れる点のみを変更した。こうすることによって、発音や語彙の違いのみではなく、各国の社会的・文化的特質をはっきり対比させることができる。表4は、欧米の英語モジュールとシンガポール英語モジュールの動画#25、#32、#38に表れる各英語変種固有の語や設定の例を示した矢頭（2018a）の表3と表4にインド、フィリピン、マレーシア版の例を加筆し、対比させたものである。

表4 「共通スクリプト」#25、#32、#24、#26における各英語変種固有の語や設定の例

英語変種	#25			#32	#24	#26
	商業施設	大規模セール	注文した飲食物	余暇の場所	引っ越し先	スポーツ観戦など
アメリカ英語	Central Plaza	Black Friday Sales	tea	Malibu	New York	baseball game
イギリス英語	Churchill Square	January Sales	tea	Hove	London	footie
豪英語	Myers	Boxing Day Sales	flat white	Sorrento's back beach	Melbourne	footy
NZ 英語	Kirkcaldie & Stains	New Year's Day Sales	long black	Mount Taranaki	the Waikato	the ABs
カナダ英語	Eaton's Centre	Boxing Day Sale	double-double	Grande Prairie	Vancouver	hockey game
アイルランド英語	Stephen's Green Centre	January Sales	tea	Brittas Bay	Galway	hurling game
シンガポール英語	Ion	GSS	teh tarik	Punggol	Melbourne	zoo
インド英語	Big Bazaar	Diwali	Samosa	Dharamshala	Bangalore	Dolls Museum
フィリピン英語	SM	the Year-End Sale	kapeng barako	Baguio	Cavite	basketball game
マレーシア英語	Mid Valley	Raya Sale	teh tarik	Langkawi	Kuchin	football

例えば動画#25では、商業施設、大規模セール、カフェで注文する飲食物をその国特有のものにしている。インド英語版では、それぞれ Big Bazaar、Diwali、Samosa、フィリピン英語版では SM、the Year-End Sale、kapeng barako、マレーシア英語では Mid Valley、Raya Sale、teh tarik に変えている。表4のイン

ド、フィリピン、マレーシア版のそれらの語の説明を表 5 に示す。#26 では、雛形となったアメリカ英語版では「子供を連れて当該国の人気スポーツを観戦する」という設定であり、アメリカ版では野球、イギリス版ではサッカー、カナダ版ではアイスホッケーを使ったが、アジア諸国ではこの設定が不自然であるとスクリプト作成者たちが指摘したため、シンガポール版では動物園、インド版では人形博物館とした。

表 5 「共通スクリプト」#25、#32、#24、#26 のインド、
フィリピン、マレーシア版に見られる固有の語の説明

英語変種	動画	固有の語	語彙説明
インド英語	#25	Big Bazaar	"Big Bazaar"はウォルマートのようなスーパーマーケットのこと。インド中に店舗がある。
		Diwali	"Diwali"はヒンドゥー教で新年を祝う祭りのことで、毎年10月末～11月初旬に開催される。この時期に買い物をする福を呼ぶとされている。
		Samosa	"samosa"は朝夕に食べる伝統的なインドの軽食のこと。サモサの主な材料はスパイス入りのマッシュポテトとマイダという中力粉。マイダで作った生地ポテトを入れて、油で揚げる。
	#32	Dharamshala	"Dharamshala"はインドのヒマチャル・プラデーシュ州にある都市のこと。「ダラムシャーラー」
	#24	Bangalore	"Bangalore"はインド南部のカルナータカ州の州都。
フィリピン英語	#25	SM	"SM"は"Shoe Mart"の略で、フィリピン国内でチェーン展開をしているデパートのこと。「シューマート」
		kapeng barako	"kapeng barako"はリベリコ種のコーヒー豆を使ったフィリピン産のコーヒーのことで、コクが強く味が濃いのが特徴。「バラココーヒー」
	#32	Baguio	"Baguio"はフィリピン北部ルソン島のコンディリエラ行政地域にある都市のこと。「バギオ」
	#24	Cavite	"Cavite"はフィリピンのルソン島中西部にある都市のこと。「カビテ」
マレーシア英語	#25	Mid Valley	"Mid Valley"は"Mid Valley Megamall"の意味で、クアラルンプールにある巨大なショッピングモールのこと。
		Raya Sale	"Raya"はマレー語で「偉大な」という意味の語で、"Raya sale"はイスラム教の断食月が明けた後に開かれるセールのこと。
		teh tarik	"teh tarik"は「引いたお茶」の意味で、準備の際に飲み物を「引く」動作で注ぐことに由来する。温かいミルクティーでマレーシアの屋台やレストランでよく見かける。
	#32	Langkawi	"Langkawi"はマレーシア北西部のアンダマン海にある島のこと。「ランカウイ島」
	#24	Kuchin	"Kuching"はボルネオ島にあるサラワク州の州都のこと。「クチン」
	#26	football	"football"は"soccer"の意味。「サッカー」

また、インド、フィリピン、マレーシア版の開発にあたり、いくつかの共通スクリプトにおいて語や設定の変更を余儀なくされた。その一部を表 6 に示す。

表 6 「共通スクリプト」 #21、#26、#27、#32 における各英語変種固有の語や設定の例

英語変種	#21	#26	#27	#32
	クッキー、その他	週末に行く予定の場所	メインディッシュ	週末明けの挨拶
アメリカ英語	cookies	driving up to my parents' house	grilled clams	Nice tan!
イギリス英語	biscuits	driving up to my parents' house	steak	You caught the sun.
豪英語	bickies	driving up to my parents' house	toasted sanga	Nice tan!
NZ 英語	bikkies	driving up North to see the in-laws' at their bach in the Coramandel.	toasted sandwich	Looks like you gotta tan over the weekend!
カナダ英語	cookies	driving up to my parents' house	grilled clams	Nice tan!
アイルランド英語	cookies	driving up to my parents' house	toasties	Nice colour!
シンガポール英語	cookies	going for a family picnic at Marina Barrage	salted egg crabs	Nice tan, man!
インド英語	idli and chutney	going to my parents' house	paneer tikka	How was your weekend?
フィリピン英語	kare-kare	going to my parents's house, spend time with them, and of course cook their favorite, pinakbet.	kilawing labanos	Oh, nice shirt!
マレーシア英語	kuih	balik kampung	roast lamb	Eh, nice tan wei!

動画#21 では、雛形となったアメリカ版の「家でクッキーを焼いた」という設定に基づき、その他の欧米版とシンガポール版でも「クッキー」を使った。ただし、「クッキー」はイギリス英語では biscuits、オーストラリア英語とニュージーランド版では bickies (bikkies) と言う。しかし、インド、フィリピン、マレーシア版の開発にあたり、家でクッキーを焼くのは一般的ではないと各国のスクリプト作成者が指摘したことを受け、インド版では idli と chutney、フィリピン版では kare-kare、マレーシア版では kuih に変更した。これらの語はモジュールの中では表 7 が示すように説明されている。

動画#26 では、雛形では「両親の家に運転していき、そこで週末を過ごす」という設定だった。その他の欧米版はこの設定をそのまま使ったが、シンガポール英語を含め、アジア版では、(長距離) 運転をして両親の家で週末を過ごすことは一般的ではないとアジア各国のスクリプト作成者に指摘されたため、その部分を変更した。表 6 をみると欧米版はすべて driving up to という表現が使われているが、アジア版では使われていない。フィリピン版の文ではタガログ語の語が挿入され、マレーシア版ではマレー語の表現を使っている。モジュールの中で記述されたこれらの語と表現の説明も表 7 が示す。

動画#27 では、雛形となったアメリカ版ではレストランでよく注文するメインディッシュとしてグリルした貝料理が登場し、その他の欧米版でもステーキやサンドウィッチ (オーストラリア英語では sanga と言う) など、日本人にもなじみのある食べ物が登場した。しかし、アジア英語のシンガポール版では salted egg crabs (アヒルの卵を塩漬けにした味付けのカニ料理)、インド版では paneer tikka (表 7 参照)、フィリピン版では kilawing labanos (表 7 参照)、マレーシア版ではイスラム教のマレー系がよく食べる roast lamb (ローストしたラム肉) など、その国固有の食べ物に変更した。

さらに、動画#32 では、雛形のアメリカ版を開発したときには想像もしなかった変更を余儀なくされた。「週末の行楽で日焼けし、職場で日焼けした肌を褒められる」というアメリカ版の設定に基づき、他の欧米版とシンガポール版ではこの設定をそのまま使った。しかし、インド版では、インド人の肌の色の関係でこの設定が不適切であるとインド人のスクリプト作成者が指摘したため、How was your weekend? に変更した。この文はフィリピン版でも変更し、T シャツをお土産として渡して Oh, nice shirt!

と登場人物に言わせた。

表 7 「共通スクリプト」 #21、#26、#27 のインド、フィリピン、
 マレーシア版に見られる固有の語と表現の説明

英語変種	動画	固有の語	語彙説明
インド英語	#21	idli	"idli"は南インドの料理で、発酵させた米粉から作る蒸しパンのこと。朝食に食べることが多い。「イドゥリ」
		chutney	"chutney"は豆と香辛料で作るペースト状の調味料のこと。日本のふりかけのようなもの。「チャツネ」
	#27	paneer tikka	"paneer tikka"はローストしたカッテージチーズをスパイスで味付けしたインドのベジタリアン料理。「パニール・ティッカ」
フィリピン英語	#21	kare-kare	"kare-kare"はフィリピン料理の一つで、ピーナッツバターがベースとなっている煮込み料理。牛肉、チンゲン菜、ナスが一般的な具材だが、鶏肉やシーフードを入れることもある。
	#26	pinkabet	"pinakbet"「ピナクベット」はフィリピン料理の一つで、様々な種類の野菜をバゴオン（アミエビを発酵させたものをペースト状にした調味料）とナンプラーで炒めたもの。豚肉やエビを入れることもある。
	#27	kilawing labanos	"kilawing labanos"は大根を酢と香辛料で煮たシンプルな料理のこと。「キラウィン・ラバノス」
マレーシア英語	#21	kuih	"kuih"は一口サイズのデザートやお菓子のこと。マレーシアの伝統菓子であるニョニャ・クエだけでなく、ケーキ、クッキー、点心、ペーストリー、ビスケットなど一口サイズのお菓子全般に使用される語。"kueh"と表記されることもある。「クエ」
	#27	balik kampung	"balik kampung"は"go back to one's hometown"の意味で、マレー語で"balik"は「家に帰る」で、"kampung"は「故郷」という意味。「帰省（郷）する」

5. おわりに

アジア英語モジュールの第一弾となったシンガポール英語モジュールと先に開発した6つの欧米版の英語モジュールを比較した矢頭（2018a）では、シンガポール英語モジュールはシンガポールの社会的・文化的特質を色濃く反映し、シンガポール英語には欧米版にはみられない他の言語（中国語とマレー語）からの語彙的・音韻的・語法的要素が転移しているため、欧米版とはかなり異なったモジュールに仕上がったと論じ、具体例を示した。本稿では、その後開発したインド版、フィリピン版、マレーシア版の社会的・文化的特質を抽出することによって、これらがどのような点において欧米の英語変種版と異なったモジュールに仕上がったのか、という点について具体例を示して解説した。その結果、シンガポール英語モジュール以上に社会的・文化的特質が色濃く反映したモジュールに仕上がった。なお、これらの三つのアジア版英語モジュールにおいても民族的・言語的多様性に基づく言語要素の転移がみられたが、それらの音韻的、語彙的、語法的特徴については、個別に分析しても壮大なスケールの研究となるため、稿を改めたい⁶。

インド版、フィリピン版、マレーシア版がシンガポール版と根本的に異なる点の一つ指摘したい。それは、これらの英語モジュールにみられるような英語による会話が実際に社会で広く聞かれるのはシンガポールのみだという点である。英語の位置づけが、これらの4つのアジア諸国において異なるからである。4つの公用語（英語、華語、マレー語、タミル語）を有するシンガポールのみが英語を第一公用語

⁶ インド英語モジュールにみられるインド英語の発音の特徴についてはすでに論考がある（関屋、矢頭、2020）。

とし、社会の共通語および学校教育の言語として公的に定め、英語を正しく話すことを奨励する国策まで施行している⁷。他方で、インドとフィリピンでは英語が社会の共通語になっていない。インドでは、英語は準公用語的な扱いを受け、公的部門だけでなく、教育、商取引、メディアなど社会で広く使用され、エリート層の共通語として使われているものの、英語を話せるインド国民は人口の約 10%のみであり、彼らの共通語はヒンディー語をはじめ、各地域の多様なインド諸語である（関屋、矢頭、2020）。フィリピンはフィリピン語（タガログ語の標準形）とともに英語を公用語とし、英語話者は多いが、フィリピン国民の共通語はタガログ語をはじめ、国民が母語とする各地域の多様な現地語である。マレーシアは、かつては英語を公用語としていたが、現在ではマレー系優遇策によりマレーシア語（マレー語）が公用語として定められ、大学教育とビジネスでは英語が重視されるものの、社会の日常的な共通語としては英語よりもマレーシア語が支配的になっている。したがって共通語として最も英語が話される国はシンガポールであり、若年層を中心に英語を母語とする国民が増加している現象もみられる（矢頭、2015）。裏を返せば、特にインド版とフィリピン版の英語モジュールに見られる英語による会話は通常の日常会話では生じない。

アジア版では、日本人にはなじみのないアジアの食文化、衣装、慣習、社会事情、宗教などが登場し、さらにアジア英語には他の言語からの語彙的・音韻的・語法的要素が転移しているため、学習者が理解できるように、これらを説明する記述が欧米版に比べて圧倒的に多くなった。CEFR をアジア諸語に適応する手法を課題とする本科研では、重要項目として「アジア諸語の社会的・文化的特質の補足説明 (Supplements)」を打ち出し、各言語の社会・文化的特質を踏まえた、Descriptors を適用して能力段階を判断する上で考慮すべき事柄が具体的に付記することを提案している（富盛、2019）。CEFR のアジア諸語への適用を進めるにあたって、アジア諸国の多様な社会的・文化的特質に合わせて変容させる柔軟性をもつことが重要だと考えられるため、本稿で論じた筆者の英語モジュール開発研究の軌跡が本科研の今後の展開に示唆する点があろう。

参考文献

<英文>

Kachru, B. B. 1985. "Standards, codification and sociolinguistic realism: The English language in the Outer Circle," in R. Quirk and H. Widdowson (eds.), *English in the World*, pp. 11-30. Cambridge University Press.

<和文>

関屋康、矢頭典枝、フィリップ・マーフィー. 2015. 「KANDA×TUFS 英語モジュール ー開発の意義と特徴ー」『グローバル・コミュニケーション研究』第 2 号、神田外語大学、pp.1-17.
https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/labo/gci_top/common/pdf/gcs_2015/gcs_001-017.pdf

関屋康、矢頭典枝. 2020. 「KANDA×TUFS 英語モジュールにみるインド英語の発音の特徴」『言語教育研究』第 30 号、神田外語大学、pp.99-133.
https://kuis.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=1712&file_id=22&file_no=1

富盛伸夫. 2019. 「社会・文化的特質を考慮したコミュニケーション能力評価法をめぐって：アジア諸語版の試み (2018-2019) ーアジア諸語を対象にした CEFR 受容で見えてきたものと捉えがたいものー」『アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮した CEFR 力記述方法の開発研究 ー中間報告書 (2018-2019) ー』pp.78-111.
<http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/images/kaken2020/table%20of%20contents%20JP.pdf>

⁷ シンガポールは 1999 年以降、“Speak Good English”運動をシンガポール政府主導のもとで推進している（矢頭、2015）。

KANDA×TUFUS 英語モジュール「アジア英語版」にみる社会的・文化的特質：
インド、フィリピン、マレーシア版を中心に（矢頭典枝）

Social and Cultural Features of Asian Englishes as seen in the KANDA×TUFUS English Modules:
Emphasis on the Indian, Philippine and Malaysian Versions (Norie Yazu)

矢頭典枝. 2015. 「シンガポールの言語状況と言語教育について —現地調査から—」 科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 研究プロジェクト『アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究 —成果報告書 (2014) —』 pp.59-75.

http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/ASIA_kaken/_userdata//59-75_Yazu.pdf

矢頭典枝. 2018a. 「KANDA×TUFUS 英語モジュール「シンガポール英語版」にみる社会的・文化的特質」 科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 研究プロジェクト『アジア諸語の社会・文化的多様性を考慮した通言語的言語能力達成度評価法の総合的研究 —成果報告書 (2015-2017) —』 pp.59-70.

http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/site0008/_src/7176/6_yazu.pdf

矢頭典枝. 2018b. 「英語の多様性について教える観点からみるグローバル人材育成」『グローバル・コミュニケーション研究』第6号、神田外語大学、pp.73-97.

https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/labo/gci_top/common/pdf/gcs_2018/gcs_073-097.pdf

<英語モジュールのウェブサイト>

神田外語大学専用サイト：<http://labo.kuis.ac.jp/module/index.html>

東京外国語大学専用サイト：<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/en/>

執筆者連絡先：yazu-n@kanda.kuis.ac.jp

本論文は科学研究費助成事業基盤研究(B)「アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR能力記述方法の開発研究」(2018年度-2020年度、研究代表者：富盛伸夫、研究課題：18H00686)、および科学研究費助成事業基盤研究(B)「多様な英語への対応力を育成するウェブ教材を活用した教育手法の研究」(2018年度-2021年度、研究代表者：矢頭典枝、研究課題：18H00695)の研究成果のひとつとして公開するものである。